



深山たかし

発行元：深山たかし後援会
 上尾市大字上1774-7
 048(776)0575
 fukayama-sov@jcom.home.ne.jp
 ホームページは検索サイト
 ”深山たかし”で閲覧できます。

議会レポート

新図書館建設について

私は、過去十年にわたり上尾市にふさわしい図書館を建設すべきであると提案をしてきました。

上尾市の図書館は県内九番目に多い蔵書数を誇りますが、図書館施設が狭く、十分な書籍を開架出来ていません。周辺自治体のさいたま市・川口市を見ると、駅ビルの複合施設に図書館が入り、読書・学習スペースなども確保され、長時間滞在出来る空間になっています。

また、今年四月にオープンした佐賀県武雄市の図書館は、民間のノウハウを活用し、書店の「TUTAYA」が管理運営を行い、全国的に注目を集めています。基本は、利用者目線の図

書館だと思っています。

自治体の図書館はの文化レベルを示すバロメーターです。また、市民の知的財産でもありますので、ハード・ソフト共に充実した施設の建設が望まれます。当局も問題点の認識を持ってくれました。財源問題もありますが、構想を早急にとりまとめたいものです。



蔦屋が運営する斬新的な図書館
佐賀県武雄市

★★答弁抜粋★★

平成二十二年三月に策定の「上尾市図書館サービス計画」では、誰もが本と出合う喜びを感じられる居心地のよい図書館、市民文化創出の礎となる図書館を理念として掲げている。

ニーズを的確に捉え、反映させることが重要と考えている。そこには、滞在性のある心地よい空間と十分な閲覧席、広範な図書資料や郷土資料を揃えた配架スペース、インターネットやデータベースが使えるコーナー、親子が本を通して関われる児童室、視覚障害者のサポート室、利用者数に見合った駐車場、駐輪場の確保など、利便性を兼ね備えた新図書館を想定してまいります。立地条件としては、中心市街地に相当の土地を確保することの難しさもあります。ですので、各分館・公民館図書室とのネットワークや資料の巡回サービスを充実することを念頭に、候補地の

範囲を拡大して検討しているところ。

現施設では配架スペースは限界に達しており、新図書館構想でこのことを踏まえ余裕のある面積の確保が必要と考えている。

電子書籍閲覧サービス

電子書籍サービスのメリットとしては、来館出来ない利用者にも図書資料を提供することができ、文字拡大・音声機能などで文字を読むことが難しくなった人に対する利便性が高まることなどが挙げられます。一方で、不都合な点、解決が待たれる点もございます。新刊の電子書籍はベストセラーなどごく一部であり一般書籍では提供する資料数が少ないこと、電子書籍の購入(使用権の取得)が1冊ではなく利用制限事項が多く発生することなど。今後も利用者の意見や図書の置かれていく情勢に注視し、質の高いサービスの提供に努めたいと考えています。

行財政問題について

民地から道路に張り出した樹木について

今年度、八月現在までの道路相談件数は約八十件で、その内、民地からの影響による生活道路の通行支障に関する相談は、約二十件であり、昨年度と同程度で全体の約三割を占めている。

対応策については、情報により現地確認を行い、通行支障の原因が明らかに民地からによるものである場合については、土地所有者の方に、管理を徹底し、通行の支障にならないよう樹木の剪定や、除草をしている。ただ、遠方に居住されている方や、何らかの事情により直接お会いできなかった場合には、文書等により剪定を依頼している。また、例外的に、緊急を

要すると判断した場合、最小限の範囲内にて剪定を市で行う場合もある。

さらに、道路への枝の張り出しなどによる通行障害が生じないように、年二回「広報あげお」に樹木の剪定について掲載し、いつも快適で安全な道路環境をつくるために協力をお願いしている。(道路管理課)

団塊世代の地域デビュー

団塊世代の方・これから退職を迎える方・これから地域デビューを考えている方々が相当数いるものと考えている。

皆様が現役時代に培われた様々な能力は、自治体と住民との協働や、地域社会との連携を図る上で、その担い手となっていただけのもので期待している。

団塊世代の多くの方々は、

市内でどんな地域活動が実施されているか、市民活動団体はどんな分野の活動をしているのか、活動団体についての情報はどこに聴けばよいのか、どこに相談すればよいのか分からないため、参加する意欲はあるものの、行動にでられない方も少なくない。

そこで、地域活動や市民活動団体の活動内容を知って頂き、多くの方と交流して頂くことが必要であると考える、その「きっかけ」として頂くため、今年度、市民活動支援センターの事業として講演会を計画いたしました「団塊スタイル」と題した講演会、市民活動団体の紹介、参加者同士の交流会を予定している。

地域活動や市民活動に対する知識、参加意欲を醸成するとともに、参加者がこれまでの仕事や趣味を通じて培ってきた、様々な知識、経験、能力を活用できる地域活動を発見して頂き、地域活動にデビューして頂けるよう、支援していきたい。

基礎的財政収支

【問い】国の財政が厳しい中、補助金や地方交付税も見直しされることが予想される「借金依存度を下げた政策経費を確保すべき」と考えるが、見解は。

【答え】本市では、財政状況をより健全なものとするべく、市債の発行を抑制することなどの努力を続けることにより元金償還金のみを除いた狭義でのプライマリーバランスの黒字を維持すること、全会計での市債残高をピーク時と比較して百億円程度減少させてきたが、地方交付税の振替措置である臨時財政対策債の発行額が毎年度増加し、本年度末には、一般会計の市債現在高の約四十三%を占める見込みとなるなど、今後は、臨時財政対策債の増加によるプライマリーバランスの悪化が懸念される。

昨年度においては、土地開発公社が先行取得した用

地の買戻しを、県貸付金を活用して行ったことにより、狭義でのプライマリーバランスは一時的に赤字となり、本年度も同様となることが見込まれますが、財政指標の一つである平成二十四年度の将来負担比率は、将来負担額を抑制しつつ、基金等を増加させたことにより前年度と比較して十五・五ポイント改善して五十七・二%となり、市長マニフェストに掲げられている「財政基盤を確立」するべく、財政健全化の推進を図っている。

なお、この用地買戻しに活用した県貸付金を除いた場合の平成二十四年度のプライマリーバランスは約二億円の黒字となっている。

指摘のとおり、『「借金の依存度」を下げた政策経費を確保すること』は必要であると認識しているところ、引き続きプライマリーバランスを考慮した市債発行を行うなど安定的、継続的な財政運営を行ってまいります。